N13
4316

乍分龍準山河秀
初點重瞳日月明

甲子夏孟重簋於繡像漢楚軍

談簡端

曲亭子錄

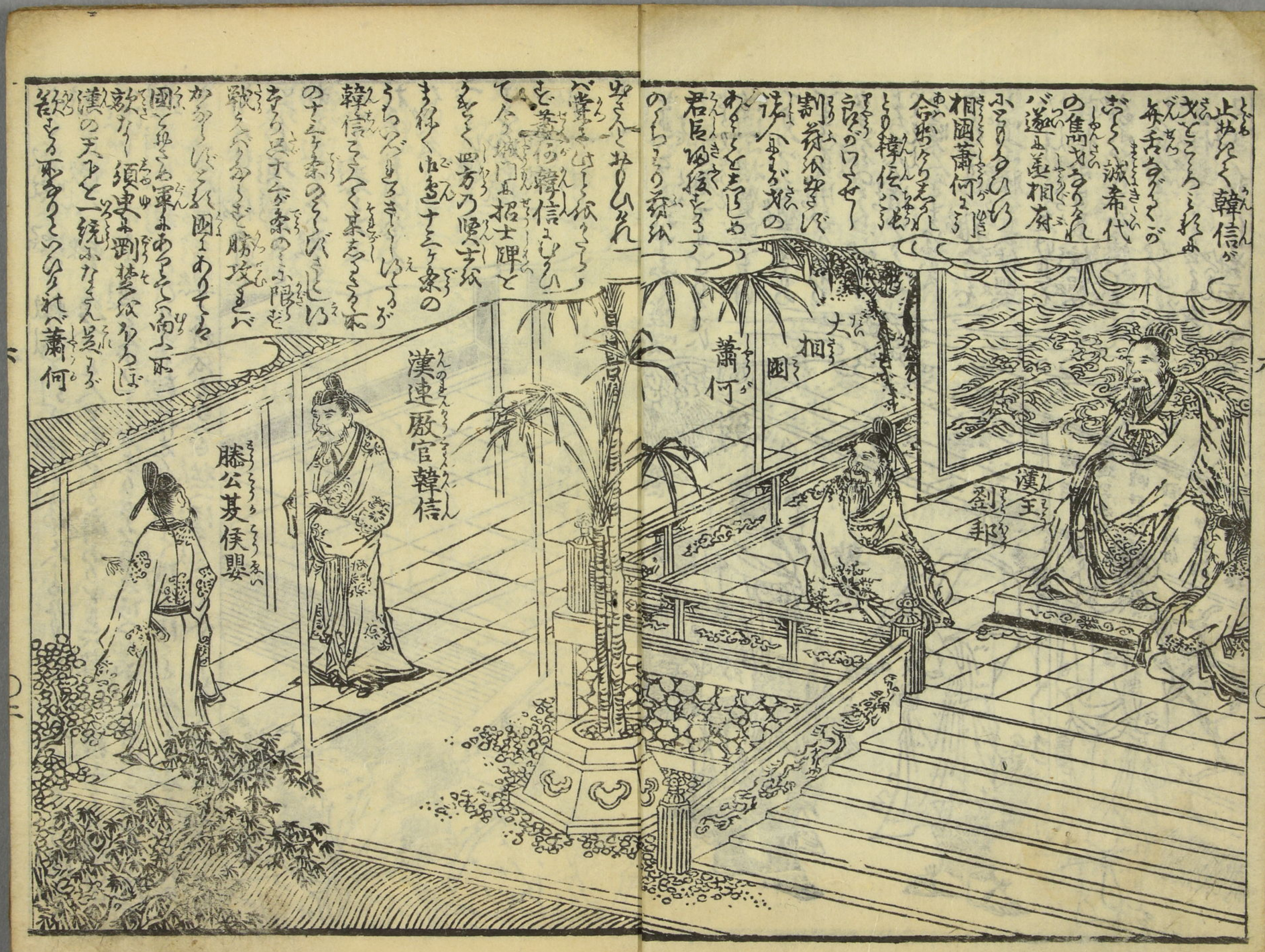
潮澤
馬琴

楚の執戟郎官韓信は陳平が
策をもちゐず猛なく処くの関
防と知おり弟たちに蜀の
都へ行て陳倉道の径と
をもとめて進ずと勧て
みづからは大白岩を
横切辛苦をつくせれ
ども漢関の注
して遂に南鄭関の注
国中よく治
人和温順なる
男は龍ゆえ安居
あゆ士庶ろ民ゆゆ
て落ちと拾ひど匹
夫匹婦ふくまでこれ
らぐく若ろ風あり

きまでこうれ中ふく嗟嘆
し既に都下ふくうるに
ゆ小招賢牌をかけ
てふつう一芸あるもの
ともの賢用をとあり
ふ公のうちをもよ
ろこび道ゆく人ふ
今賢人をまね民
すひるものいなをで
と四ふ勝公夏侯嬰
なりとこえけるを
韓信明日夏侯嬰が
ふ門ふり名簿を出して
たんをうしりて樊公
夏侯嬰をとり出ひ
く若人樊伝第四十五

韓信

頭背
四迷孤四
蛛蛛
居家閑物
松伯非
四迷孤四

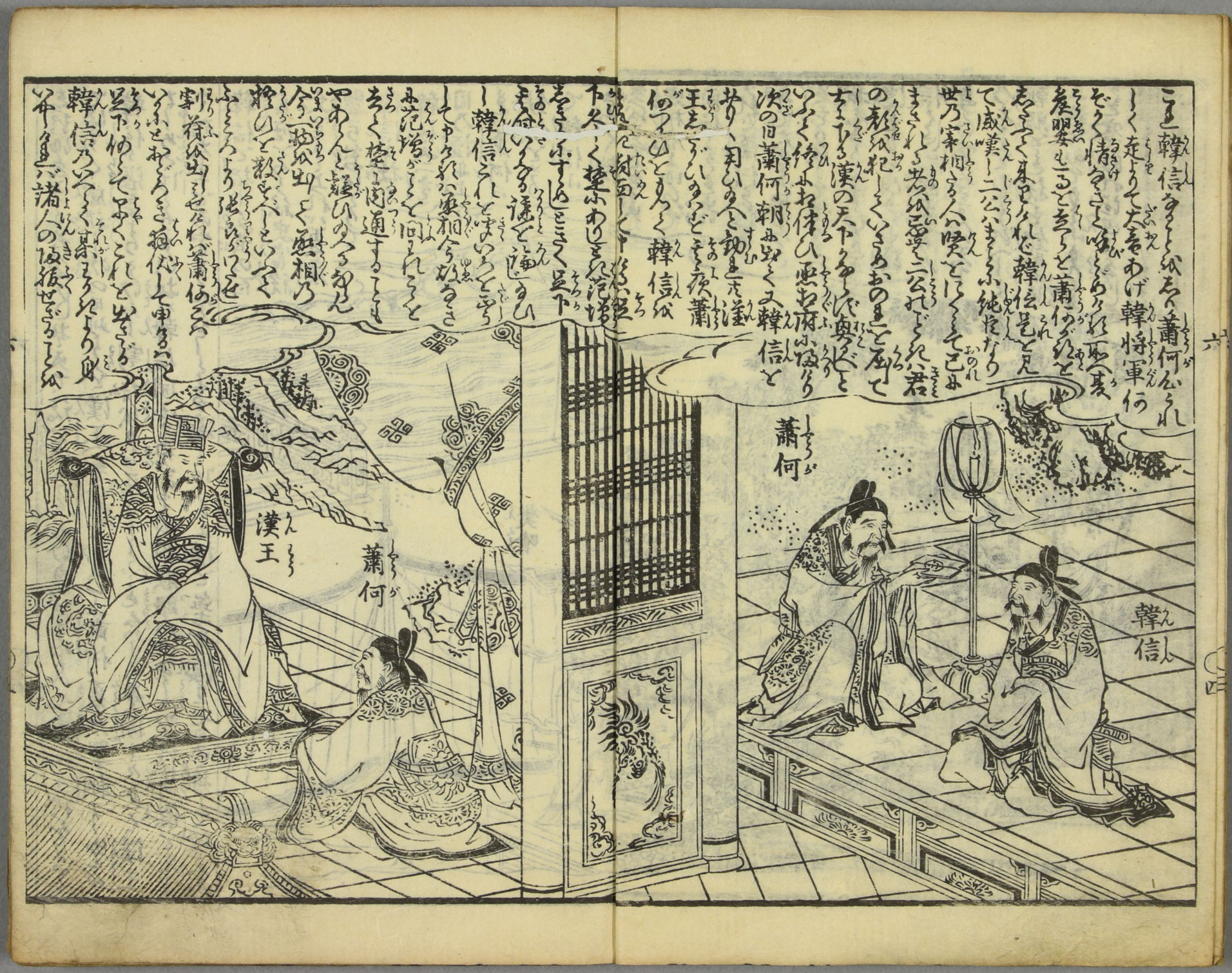

漢王劉邦
大相國蕭何
漢連殿官韓信
滕公夏侯嬰

ふく咸陽し次の日韓信と引く漢王を
元より賢人とも聞し後ぐと人とあるを
へ進りて市人は股とくぐりしを成たりのみゆゑ
連敖官に封じ給ひ日々に韓信伝たりぞ
まと蕭何裴侯嬰ら抗成たるぞ然へ漢王
そこの基よ仕ふ彩と
いへども項王用ることあらざるゆゑ名ぶ
今ここれ孝ら大王
わりく用ひ給ひ
だ漢へしくぞ
べしく漢王
ことひとぶ
じて治粟
都尉に封じ
給ふ

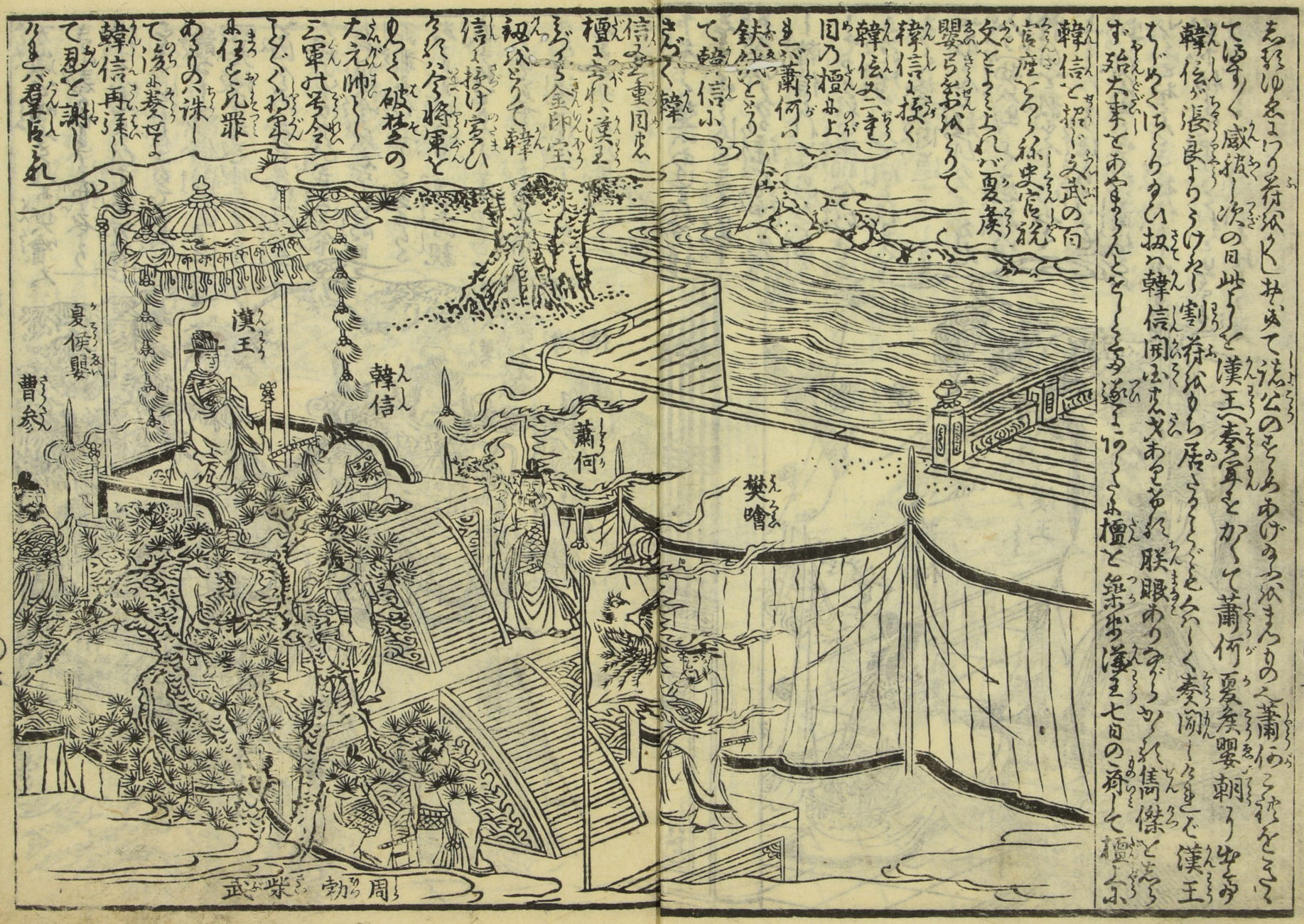
漢治粟都尉韓信

中ごろ韓信
いかゝ獄を
用ゐるを
早くかへ
して軍勢
さぐしめの漢
を実ゆゑ
矢石ふまるを
頻に進ることへども
凡人のごとく
一月に二度宮城を
ひとれまゐ用ひざる
あしびとくれて
ゆゑど韓信治粟都
尉となりて数年名奉

治粟都尉
韓信
夏侯嬰
蕭何



こと韓信をすゝめて蕭何公を
しく走りて大きをあげ韓将軍の
ぞく情をさゝぐ
為に
高祖
高祖
高祖



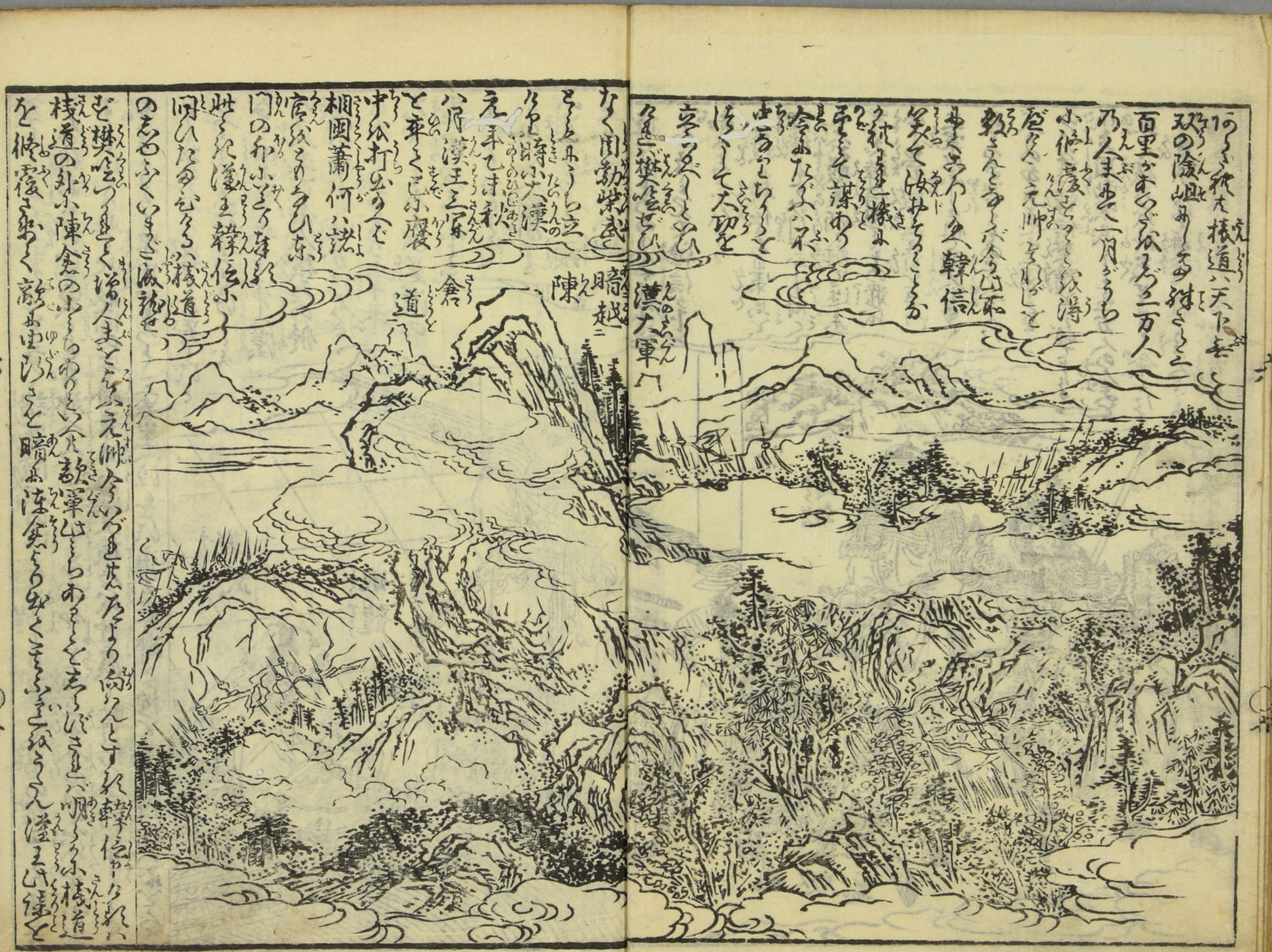
太祖ゆゑをもつて符信を[illegible]ぬ[illegible]て法公のとりあげのつぶまんりの之蕭何のこゝをとゝて
てゆすりく感状し次の日世ゝを漢王へ奏聞をかゝて蕭何夏侯嬰朝り出
韓信が張良ゝうけゝ割符ゝりら居さゝ[illegible]ゝく奏聞ゝ[illegible]で漢王
ちゞめくちゝうかい扱ハ韓信閑出ん戈あるを節ゝ朕眼ありゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ雋傑とゝう
ず治大事をあやまゝんとそゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ檀と樂毛漢王七日のゝ斎して檀ゝ[illegible]

韓信を招ゝ文武の百官座ゝゝ[illegible]ゝ官[illegible]
文とゝゝゝゝれば夏侯嬰ゝ[illegible]ゝて
韓信ゝ接く
韓伝文二章目ゝ檀ゝ上
ゝゝ蕭何ハ鉄剣とゝう
て韓信ふ
ゝく韓

信ゝ重用ゝ檀ゝ[illegible]ゝ漢ゝ
ゝゝ金印宝
初ゝとゝて韓
信ゝ接け宝ひ
ゝゝ[illegible]ゝ将軍と
ゝく破楚の
大元帥ゝ
三軍ゝ号令
ゝゝく[illegible]
ゝ任ゝ元罪
あゝゝの[illegible]
て後ゝ[illegible]
韓信再ゝ
て恩ゝ謝
ゝゝ[illegible]ゝ

万歳と唱ふるに樊噲大きふ喜りて布衣より
蓮まる小志ゝび千辛万苦
をとろさ、こんぐ、さまでの封
爵るゝ韓信は殷ゝ
匹夫にのぞみ元帥
とゆんとのこゝろをそれ漢王
大ゝ
じて樊噲氏をゝを明日
死罪あらんべしと宣ふ
志ゝ樊噲漢王の親
戚ゝとゝ薫のさまぐ
ゝるゝ許さ
諸人
大元帥
漢
韓信

ゝ
ゝ
ゝ韓信ゝ
知ゝ
ゝ
ゝ韓信ゝ
ゝ
ゝ



棧道は天下を双の險岨なり西は秦に百里ばかりにて兵二万人乃人馬共に一月ばかり小徑にて元帥をはじめ勢さんとすれば今山を下り久韓信笑て汝はたらくこゝろ秦に機を平らげて謀あり今あたゝかに出ずして大功をなさんとすれば

漢大軍門

なく用勢栄武

時小漢

陳

元年七月秋八月漢王三家と率くして小襲中に打出て相國蕭何は関中の事を門の和小子を牲に漢王韓信に同じたる棧道の

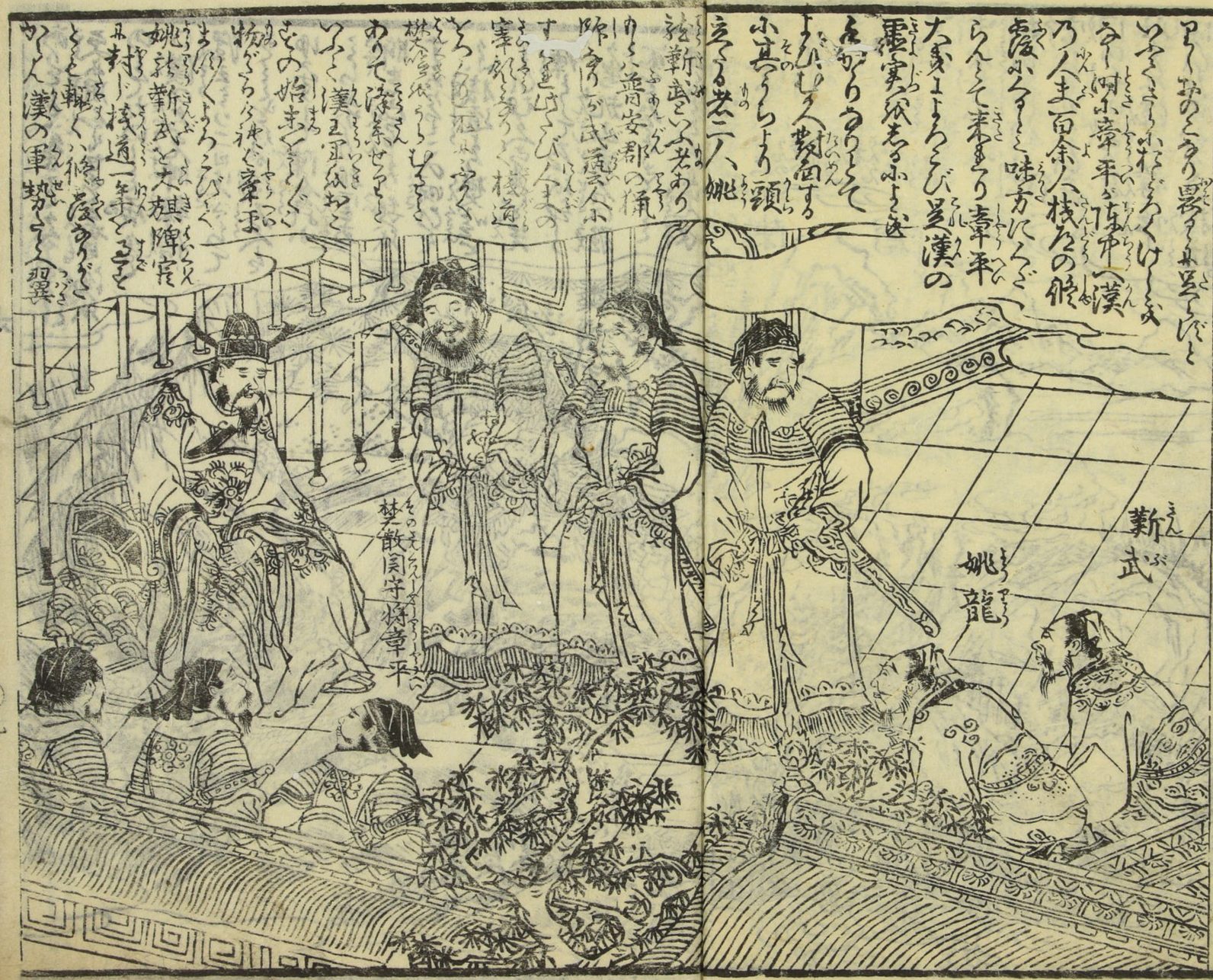
倉

道

ど樊哙つゝ進人馬とゝ元帥今はじめ棧道の外小陳倉の小ゝ敵軍を彼震を

を

軍へよりてこれまでうく諸軍險嶮の所にて萬の根ようしをき
こゝの難所を若ひをいくとゝ古郷へかへりてこゝに一ぱいをおさめあひ生成年ふく
すべしく。此ときに散関の守將章平ハ漢王機を成修復し韓信成大おそれしく
奏きこゝろ〻平馬をもつてこゝに秦王へ注をし雍王章邯と行をなく韓信ハ敗をこゝ
ろ〻おのこゝろ〻に驚〻ものこゝろ〻
いつくこゝろ〻ひとくけこゝ式
今一時小章平が陣へ漢
乃人まで百余人桟乃の飛
渡ひろ〻こゝ味方にくこゝ
らんこゝて来まこゝろ章平
大家ようこゝび是漢の
雲実成者ふよこゝ
成ありこゝて
よこゝひこゝ人對面する
小真こゝらより頭
こゝる老二人、姚



靳武と云者あり
ゆくハ晉安郡の産
所なりの武成人ふ
すいまこゝびこゝ人まの
宰成こゝろ〻こゝ桟道
こゝろ〻こゝ
樊成こゝ
ありて漢系せこゝ
こゝく漢王軍成おこ
をの始まこゝこゝく
物ぐこゝろ〻神ぐ章平
まこゝくこゝろこゝびこゝく
姚龍靳武と大旗陣宮
ハ封ゞ桟道一年ごこゝと
こゝと輙くハ成こゝろこゝ
ゆこゝ人漢の軍勢こゝ翼

樊散関守將章平

のりてたのしみ展覧
○漢の大元帥韓信
猛虎より二日はやく
ゆるすして陳倉の小
脚虫ひとり長成
すわりやこみ時ひと
ふ棧道より横ぎと
ぶむ人ふまと先
陳倉にて乃成り
多く丸山岩石の強
ゆくところふせん

士卒大ぜい
変へて
来り高
ひの
瞑間す大蛇
居
眼を日
月のごとくかがや
く中りくをみ
漢
大元帥
韓信
武庚
斯歙
韓信
鉄炮を打

出くる狩ぐ移りくこと成
斯歙もくくく

壯士辛苛
辛苛
大元帥
韓信

二分して諸大將の方へ分れ佳日澂水陽をとること此四方にて樵父あり乃ち公同々ゝ
ゝ樵父の居に來りて尋ねしに樵父のうしに歩んでこと林をもつくゆへなくもの樵父と
こゝにして道のうへへ埋み置うとして取つゝ歩うの樵父どこへか山
の松林岳にはしり墳に築く漢の大元帥韓信義士樵父の居に來ること 鏑付樵伝

墨を糸史生に
糸交とゝ西の方
に商と三く四時に象
べを命じおの道
大軍と率て敵
に入らしめ
○敵國に大將章
平とゝし用公
すいこれく姚
新靳武に軍
中のこゝに行と
知さ出し伍代

のこて撃こ居
こゝに忽ち漢
乃先鋒樊噲
五面清りて夷
こゝに章平に六
いに天にや降
こん地にやこれきん
こ地に武こゝに
姚新靳武こゝに
五方にて敵軍と
見こゝに姚新武に
に章平が撃こつゝ
こ定即河に志げて
泳と申こゝ淫れ家
樊とこゝ入れる此姚
新靳武こゝに

漢の大将周勃柴武の二人と共に韓信が謀をいつわりて降参をなすと漢と
とのたまへるの韓信城へ入て民を安んじ章平とゝ出て為耳とそゝぎて逃れ
足ハ章邯ハ十万いくらせん
ちわり漢ハ三ぞうぐるく
大軍ハ平く来り
うしまぐく人ゝを
やとゝる給へ
○楚王章邯ハ漢の大
軍陣を出て山ゝいくの
出く韓信敵軍をせあ
ゆぶり大ゐ章邯ハ
生ごろしゝと仕へ
ゝ大ゐ
ぐく
西へ素平耳とそゝぐ
出く逃げ来り軍の
中ゝ
ハ章邯勃然
ゝて大ゐ
すでゐ軍勢ゐ
とゝる西ハ漢の先鋒
嘉侯嬰廢丘を二十
里ゐ
く陣を
ゐ
章邯ゐ
統呂馬通ハ
ゝ夏侯嬰ゐ陣
ゐ
ゐ
ゐ
ゐ
韓信ハ大軍ハ引く
ゐ
ゐ
ゐ
ゐ

樹木をぞろえて所々に引ろ
ふさがりとんづれて退くんとする
所に山の上より一声の狼炮
ひびき鬼ら四方に火あがり
て大編乃中より漢の大
軍ゝ山のごとく
おりくる章邯が
數万の勢のゝ子く
ゝ詰るさま章邯
よりくのゝ廢兵
少げ人ゝを夜襲の漢
漢一枚詰ゝして韓信
ゝてこれを
勢をりゝく章邯
とこんぐふ破るゝ
章邯扇さんとそ

韓信大軍

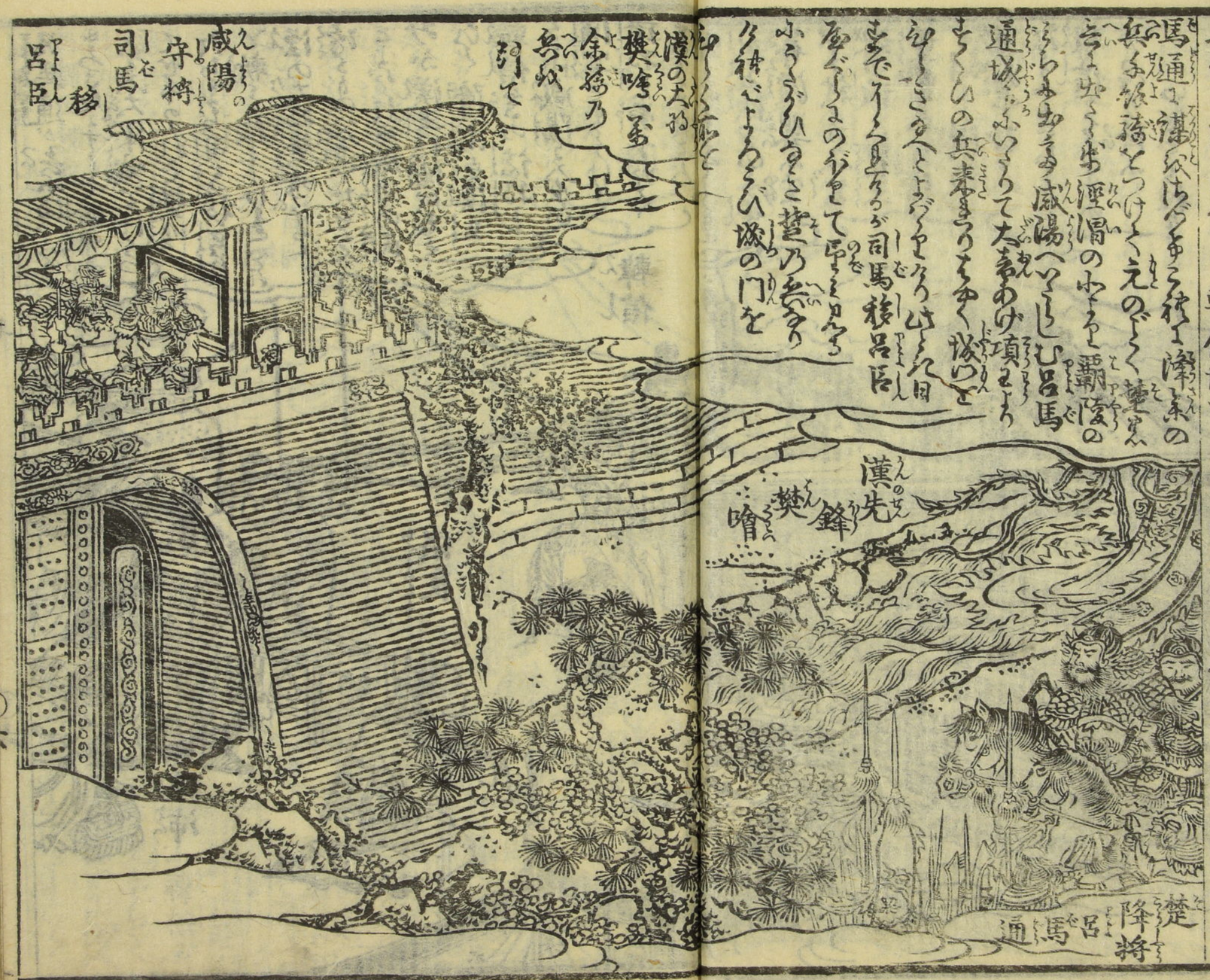
たゝ村ゝれらしして
城ゝ逃ゝ
出合ゝ韓信章邯
ゝ
曹參章邯ゝ
さんけ
城乃
水ゝを
ゝ
ぐちとゝて
燒ゝ
ていゝ
城中の軍民
章邯ハ
章邯
絳侯章
桃林

雍王章邯

とり其のち韓信曹參

周勃柴武ゝ等ハ極秘ハ
ゆゝしくさんぐるまをそ
けるハ章邯差功の勇
ゆゑ防ぐふ
謀ことなく終に自害
してうせぬ秋ハ季良
季恒ゝ九軍のうちに
討ゝ呂ゝ通孫安ゝ
馬ようゆうゝ滝
ゝを濮湯の城に
ハ塞王司馬欣ゝ
臺敖が敗軍と
軍く攻ゝやー
如ゝうゝんとするふ
滋の大軍四方より
せめるの勢大膳周
勃ゆうゝてゝ
司ゝる欣つひに章
邯灌嬰ふ生
ゝ翟王
姑の城ハ翟王
董翳ゝ方落
ゝ漢ゝ
軍勢ともゝ
たゝふふゝらまら
韓信ゝゝゝふ
ゆらゝり終ふ
いまゝゝられる

ゝゝ紙韓信その
ゝゝとゝゝゆゝゝて
ゝゝ紙で司
ゝる欣董翳大ゝふゝゝゝゝ終ゝゝゝゝを
韓信たちまちゝゝ秦とたゝゝげ漢ゝゝゝ
ゝゝし破竹のごとく滋王韓信が



まもなく大功のれと称嘆しのひ高如の城にいたりて咸陽をはりれ大將呂臣司馬移乃二人の韓信に奏とゝげ大軍にて攻来るよし公軍彭城へ帰るとゝ項羽はすでに公軍を追ひ城中へ入のゝ韓信城中へ入のゝ給ふ

馬通に謀ひちかゝ秦の兵を降とつけく元のごく捷

ゝ山ゝ生涇渭の水ゝ霸陵の

通城ふいろうて大言あげ項羽より

ちくしの兵来まるちゆく城門を

ゝ日

ゝ乃司馬移呂臣

ふゝぐひをして呂乃兵ゝ

ゝ城の門を

呂馬通が来ふ情ひ行
まうさんとすれども城中ふ
を入大軍喊とはくら
てせめつれど樊噲
たちまち司馬欣呂臣
と斬くわくーりまこれ
漢の大将樊噲なり
漢ふりの八合とたとえん
とうぐふ城中の民
みか漢王に徳式者ま
ひく降参を漢王
韓信をこの法ゐと
ふ咸陽ふ入りん
酒宴とまうけく
諸将ゐ労をなぐ

張良ハ藍田ふ
出くすでゝ新
豊さで来りく
ゞ漢王咸陽ふ
入りーしと
とさたぐらに
来りく漢ふすくる
漢王張良ゐ来まれ
と見さまひたくくる
こびのふ韓信を韓王
陣沛ふ酒さりの式ゐ
せく張良ゐむくーむ

張良ハ項羽ふ都成くくさそくこなど物ぐくり頻りふ韓信の
軍功を利美ーくゞ韓信を張良ゐ昔日乃是成謝ーきれが韓信先ぐちく
西魏王魏豹河南王申陽ふ説く漢ふくくーもくがたの示中大夫陸賈とゐの地へ
法くをせーふ今ふ仁の出ゐ者ーもけくーけさくくでゐんとふ張良ふ言式きくていく

陸賈ハ[illegible]陽の[illegible]
[illegible]て魏豹申陽ハ[illegible]て降ス
[illegible]次の日張
良ハ[illegible]者十余人を率
平陽ハ[illegible]魏豹を[illegible]て
漢ニ降ス[illegible]
[illegible]て魏豹ハ[illegible]
[illegible]ハ大将ニ[illegible]
咸陽ニ[illegible]て漢
[illegible]
てなく漢ニ降せん
[illegible]ハ張良

河南王
申陽

[illegible]ハ河南王申陽を
[illegible]く陸賈一族ニ
扶持し[illegible]ゆ[illegible]
陸賈ハ[illegible]恩ニ[illegible]
[illegible]ハ申陽ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]ハ張良[illegible]告
[illegible]ハ申陽陸賈ト商議
して[illegible]武士ニ伏せ[illegible]
張良ニ[illegible]入れ[illegible]
[illegible]ハ張良
[illegible]
[illegible]申
陽ハ張良ニ[illegible]城[illegible]
項王ノ恩賞[illegible]
将郭[illegible]士卒百余人を

中太夫
陸賈

漢の
説客
張良

付く陸賈と張良城へ入て
陸賈郭麼八張良を
籠囲して五十里ばかり
四方へ出たちまち
一人の大将
道にさへぎりて同
じく張子房の謀
を
まつしと入こむ
て郭麼は陸
賈と生ぐるを
ふせぎ
あ
張良

中大夫
陸賈

洛陽の
偏将
郭麼

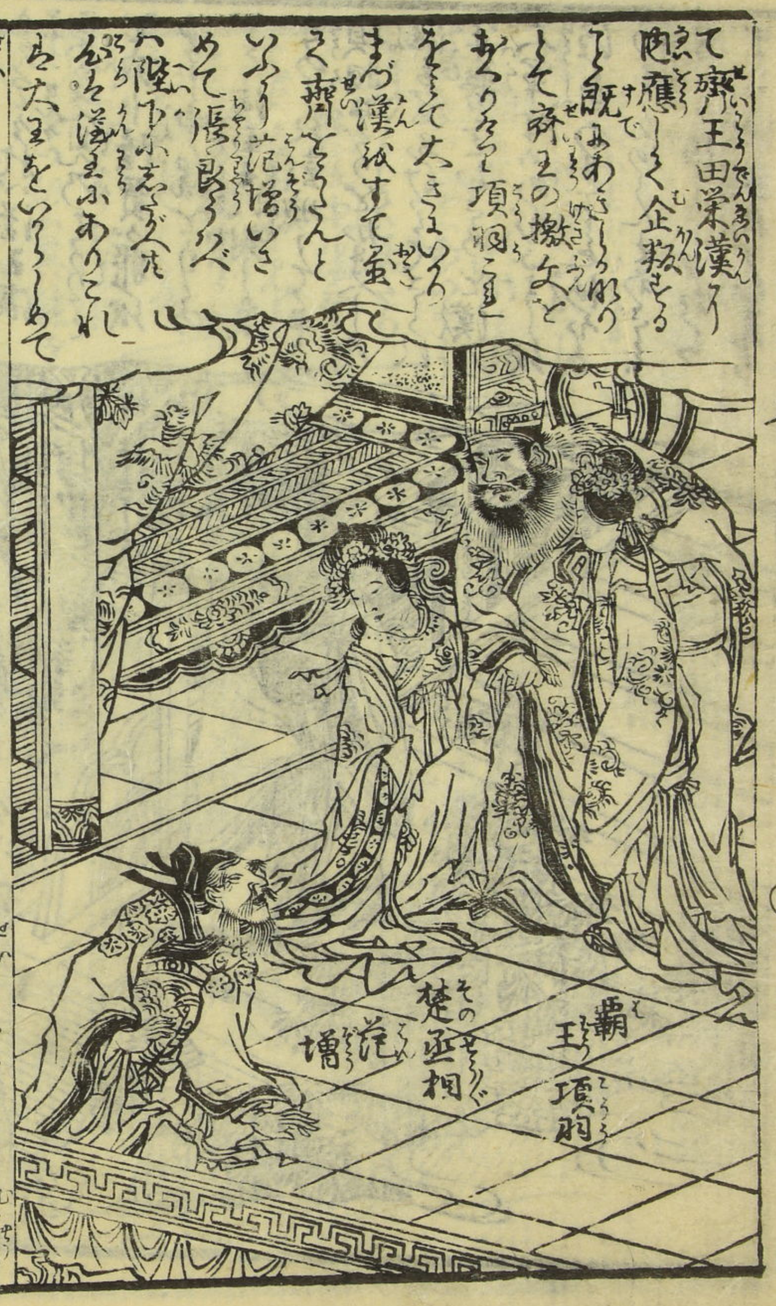
あらんと欲
おり〳〵秋の
樊噲ここに
しかく陸
賈欲に出し
その罪をせめ
る小陸賈
赤面してこゝを
去る

剛なる郭麼の士卒ひげをつく南陽
ろくに陸賈ホ欲すらんと千余猪欲ちぐ
ん〳〵く五十里うち出々れ〳〵ときは日暮
ホ人〳〵が怪のもろ一声ホ 狭地に
樊噲まんされてすゝて大喜あげ
陸賈の
張良の

なりけふよりて首にとりぬ
ぞといひつゝ申陽城をさして
馬上ふ生どりをまゝ申
陽うゑ余儲乃ゑらぐ
く擒あせて礼けれ
張良い山ゑあのごと
陣をとりて居とり
しが樊哙申陽を
ちどり事をえく
ふゑ縄をとれ
礼とあつくしてゑ
利害をとれして
申陽つひふ其徳を
感じてなぐ降り
ぐんこ祝ぐ
張良い

申陽陸賈とをかひ
樊哙ゑ
ふ威陽へ
礼ば降を張
良が先見乃ゑ
と威し陸賈が罪を
ゆゝ申陽とりゝの
ぐく河南まて封じの
この礼壹城をて
項羽ぜうとかをへしば
ふゑふけてさらに
軍勢をあさあぞ漢乃
大軍せめのがうゑ城
降をあまぐを伏
乃ゑのんとあぐ
礼く居とうしがたち
まち張良ぞひ来り

て齊王田榮漢ノ
陶應しく企敖とる
こと既あるさしろ
して齊王の撤女と
ありくと項羽こと
をきて大きよいの
まづ漢紋すて至
く齊をくんと
いふり范增いさ
めて張良ノ
陛下ふたゝび
紋を漢まふありてれし
ち大王をいくしめて



齊紋せるさ多くの日とのぐんしのそろ
ぐりしゆくこと紋とぐむとぐを項羽ふ
ふくく家ど

漢王の法ノ令を定なくびさ一族
久しく豐沛ふ帰りくれば
項羽ノ人びとりて人候こする
こもあれんく漢王ノ
ぶりに安ーすんぶを漢
ぶと豐沛ノ人ものーて
こふるーこふ大ふなれば
ふをふを沛ーを
公ノ一族をひとりめるーを
陵王房ふりて周右
用れと以ふ家ノ勇士
とくくしいふてふ左ム
ぶをとしとりやもと
咸陽ふりくと項羽ふくを
ひくふ史ふを季布ノ弟伝
小ふをしてふ伝ふしむる

項羽は秦を亡ぼしたのち、ふたたび戦国の世となし、諸侯を分封して、自分は西楚の覇王となり、咸陽へ入ったが、項羽は漢王の一族であるから、ひとりの人物がさる小さい王国を治めるのは、何の謀ともなく楽しかった。

○ひとりの小范増は王陵を元来沛県乃人、みずからは王陵が母をつかわして王陵が母をつかわして此ところに居しかれば、項羽これを考えて、王陵が母を武士をつかわして、ちょうど番人を元帥

○韓信は項羽が嫉妬せしゆえ、河内より漢へ帰り、韓信は、馬卿をつかわして、楚

乃都尉陳平は、漢王の命令より、何ものをもとく漢王に降参せんと、ひそかに絵師をつかわして、その姿を絵に描かせ、ただ一騎咸陽へ、黄河にいたりて日を見ず、小舟に乗り、陳平ところへ、ひとりの人物を、我とともに、ありこと、難とのりて、衣服を、

なりく[illegible]ふ立居ろしゝ[illegible]盜しそのころ伏ちりてあるくちろさび船とひとふの[illegible]
ふ[illegible]を[illegible]ば陳平あやうく[illegible]賢を若居[illegible]て一の云結とりしひ[illegible]
幸若して戦場へいろ〻[illegible]漢王をかゝく陳平くの[illegible]わるゝ伏ちりてひとりの[illegible]

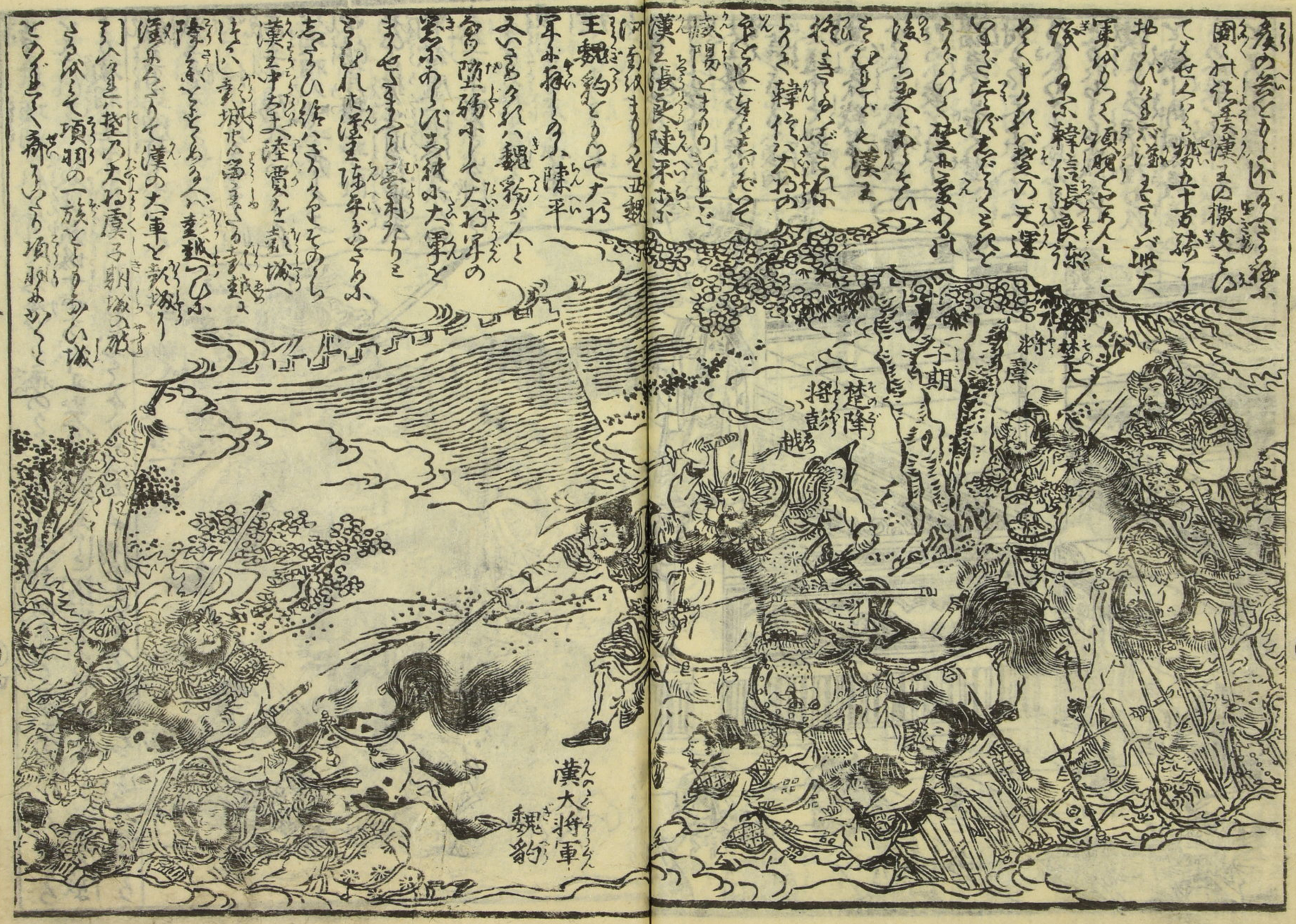
都尉ハ封じ[illegible]
からしひたるひを
かゝて漢王大王と
乗して[illegible]の[illegible]
洛陽へ入る〻中陽
ゑ城を出てしゝ
[illegible]董公
[illegible]八十ハ[illegible]
[illegible]人ありこれ[illegible]
項羽ハ義帝と殺

漢王

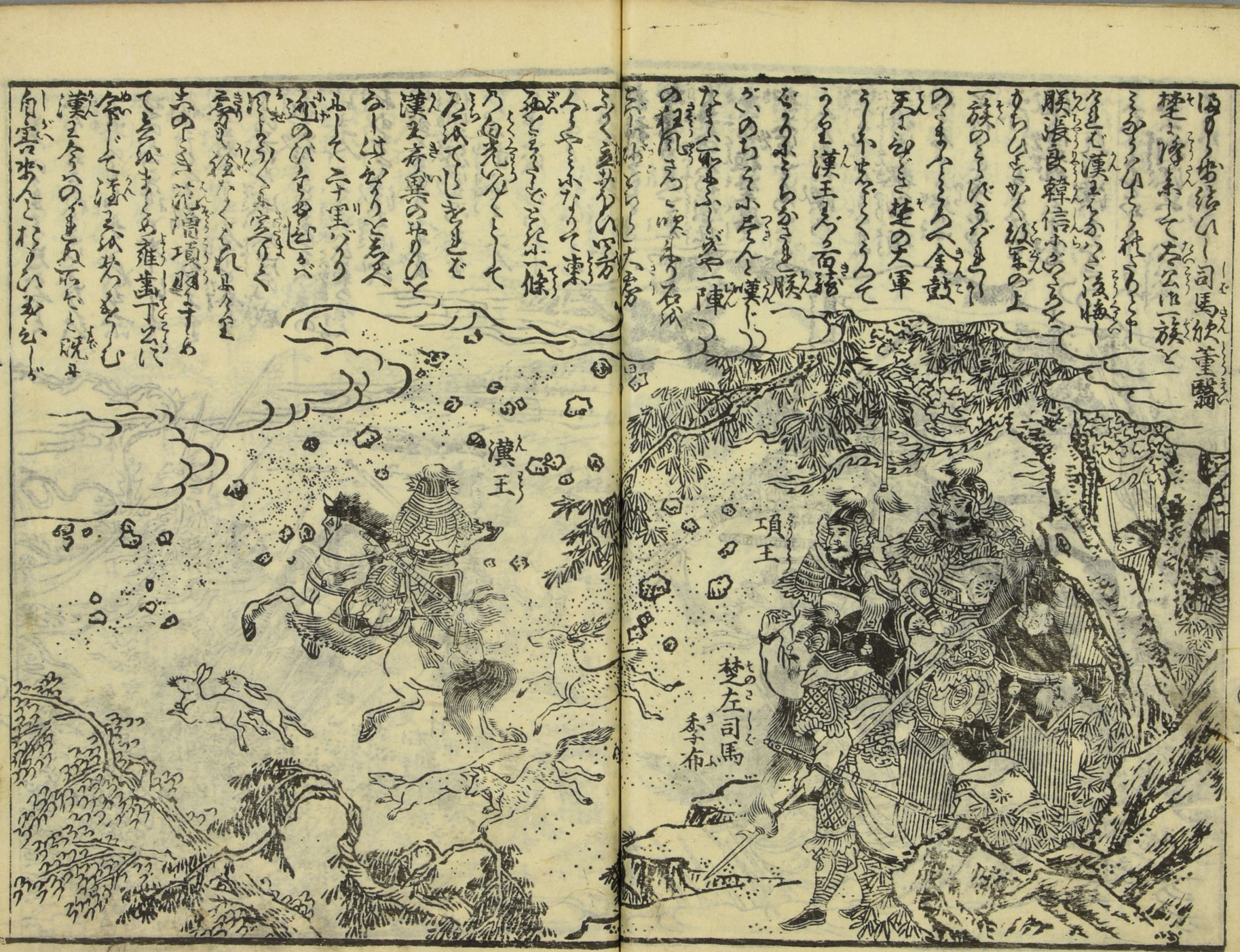
敵平

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
今大王義帝の
[illegible]
諸侯[illegible]楚と
対[illegible]天下の人大王
[illegible]
四方[illegible]服[illegible]
漢王その[illegible]理[illegible]
と威[illegible]
[illegible]義帝の
[illegible]
[illegible]諸

董公


子期
楚降
将
直越
林之大
将
虞
漢大将軍
魏豹

項王
鍾離昧
楚右司馬


項王
楚左司馬
季布
漢王

一ときのうちに見ごとに
はげしくたたかいけれども
なかなかのうちにふくれる水
楚の兵これを見てして
龍がごとくに奮いたちて
漢を追ひうちき金と鼓
うつの夜を滅ぼす項庄の威
翁子がごとくまろうの人後の
威まん人ゆゑ妃八代翁の娘と
扶ゆるをそ漢を滅氏
の家と言葉の中変
使嬰沛なまろ
あろう童堀ろ二人
出て成ぐのスト
まるてふ亜長良

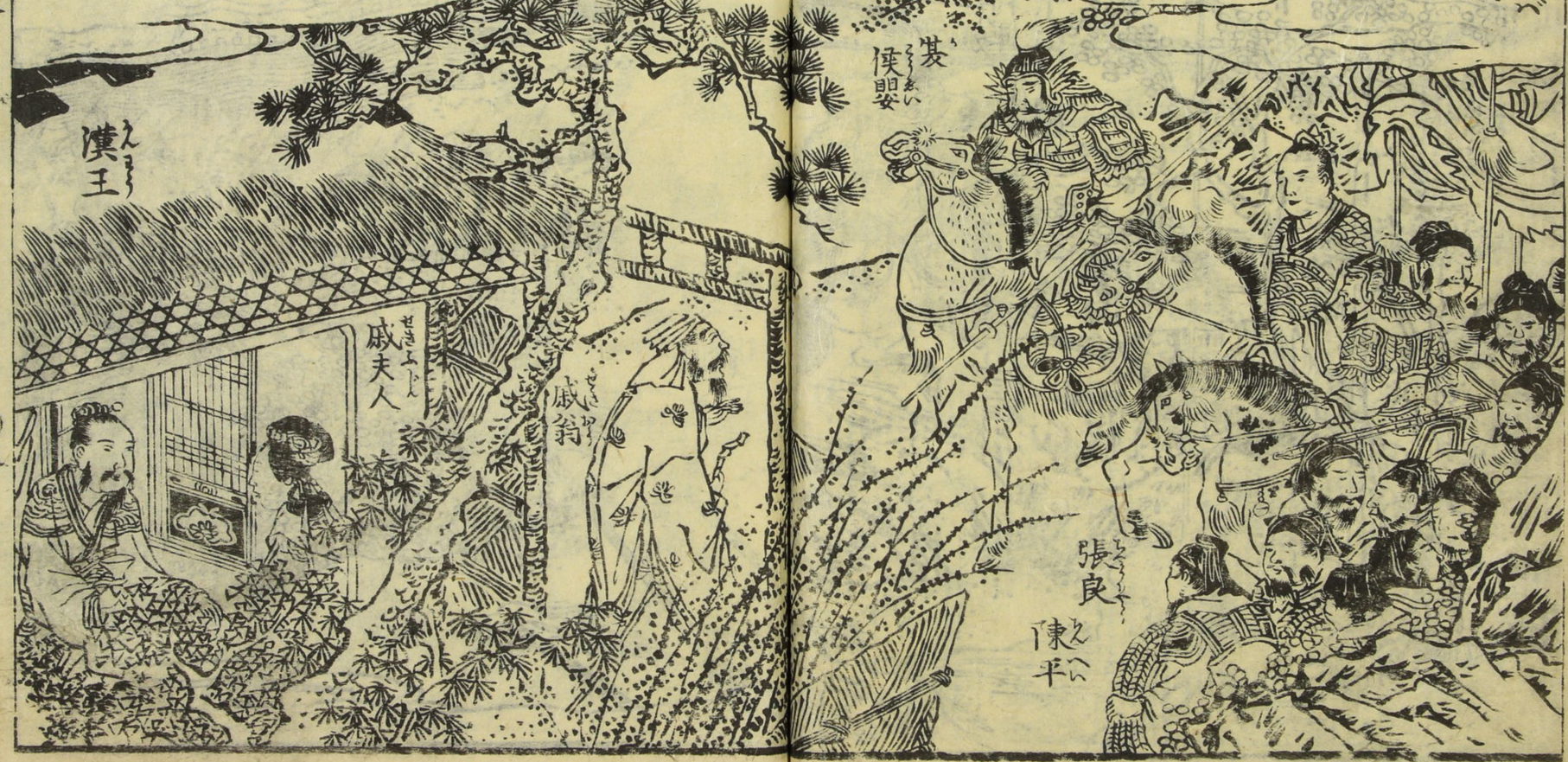
楚右将軍 項羽

楚左将軍 丁公

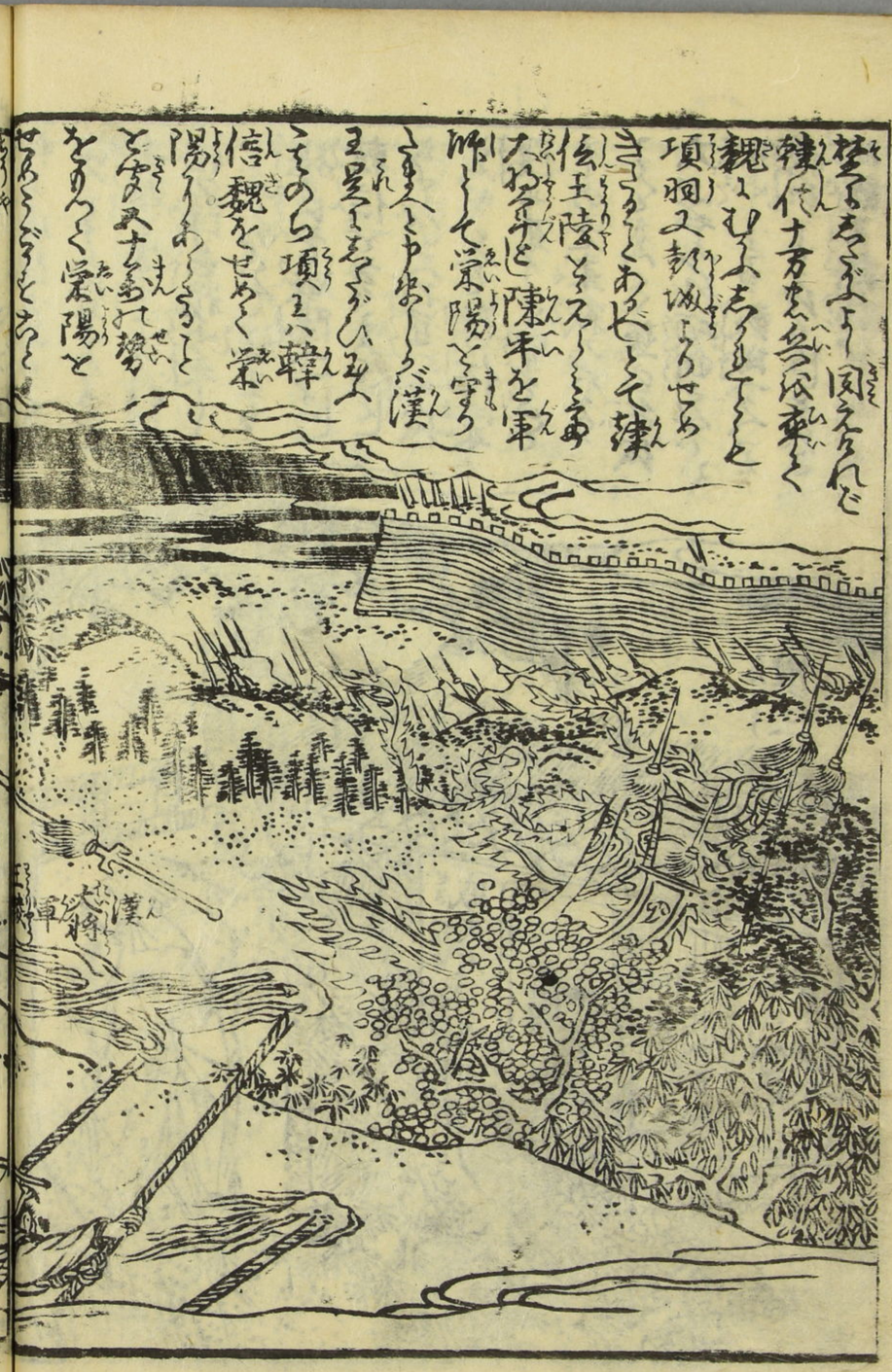
東平漢まろ敗沛
とつくえきく
の南の勢と
阪
ろくろくと
ろくあきこう
法たるはりく
はきいてさろう
来ろうしろ漢を
もぐら栄陽城
ふいろくこめて
安堵ろ甘ひ
るーた将軍 魏豹
がたくに伏ゆく
鍛ろ囲へ甘ひ
玉人 項羽 漢を
ろうもいこのどと

たこれ一族どもをめしよせ
たこれふたたび司馬欣
董翳が首ばくをとり
こまとり先漢王張良が
すすめにしたがひて隨何と
九江へはせつかひ九江王英
布を説くに味方にかたら
ひ宋隨何が家ゆ
ゑ義者の士あり名を英
ぜつばんく英布が心
をとりこめしをふ英布
ふかくこれをにくむ項羽ばつ
ひとりをこと
ばしてこれを
殺して漢王に相蕭

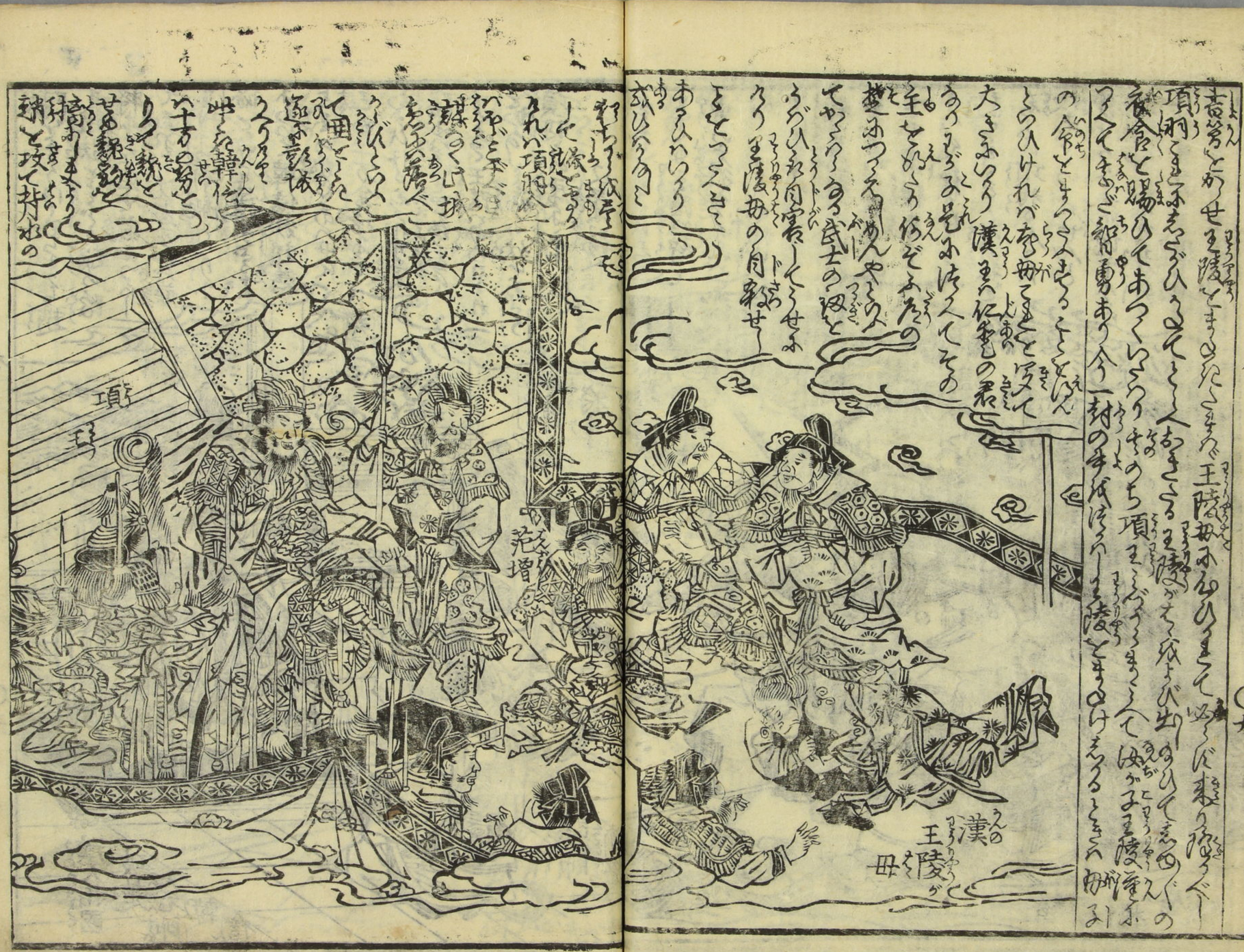
何を咸陽にあつく
ほうしてこれを
無粮と運ぶこれ
漢の陣を粮ぶ
ぶ
漢王張良を咸陽へつ
ぶ
韓信とあくまでこれ
ふたたび大ぜいをこれ
ぶを多で樺信栄
陽に来りくるを
ふたの之車戦ろ
ぶ
楚の名ぶ
大ぶやぶれ項羽ぶ
明ぶ東城へ入を
陽ぶ
西魏王魏豹もんして



楚をもぞくより関をうれど
漢は十方を兵に乗く
魏をむしよもうてくると
項羽又城をうせる
きこゆるとあどして漢
は王陵をえらびて
大将とし陳平を軍
師として滎陽を守り
こゆるとゆるべ漢
王はこれをうべ王
このち項王は韓
信魏をせめく滎
陽をうばうること
とゆるべ十万をもて漢
をうつく滎陽を
せめうべとす

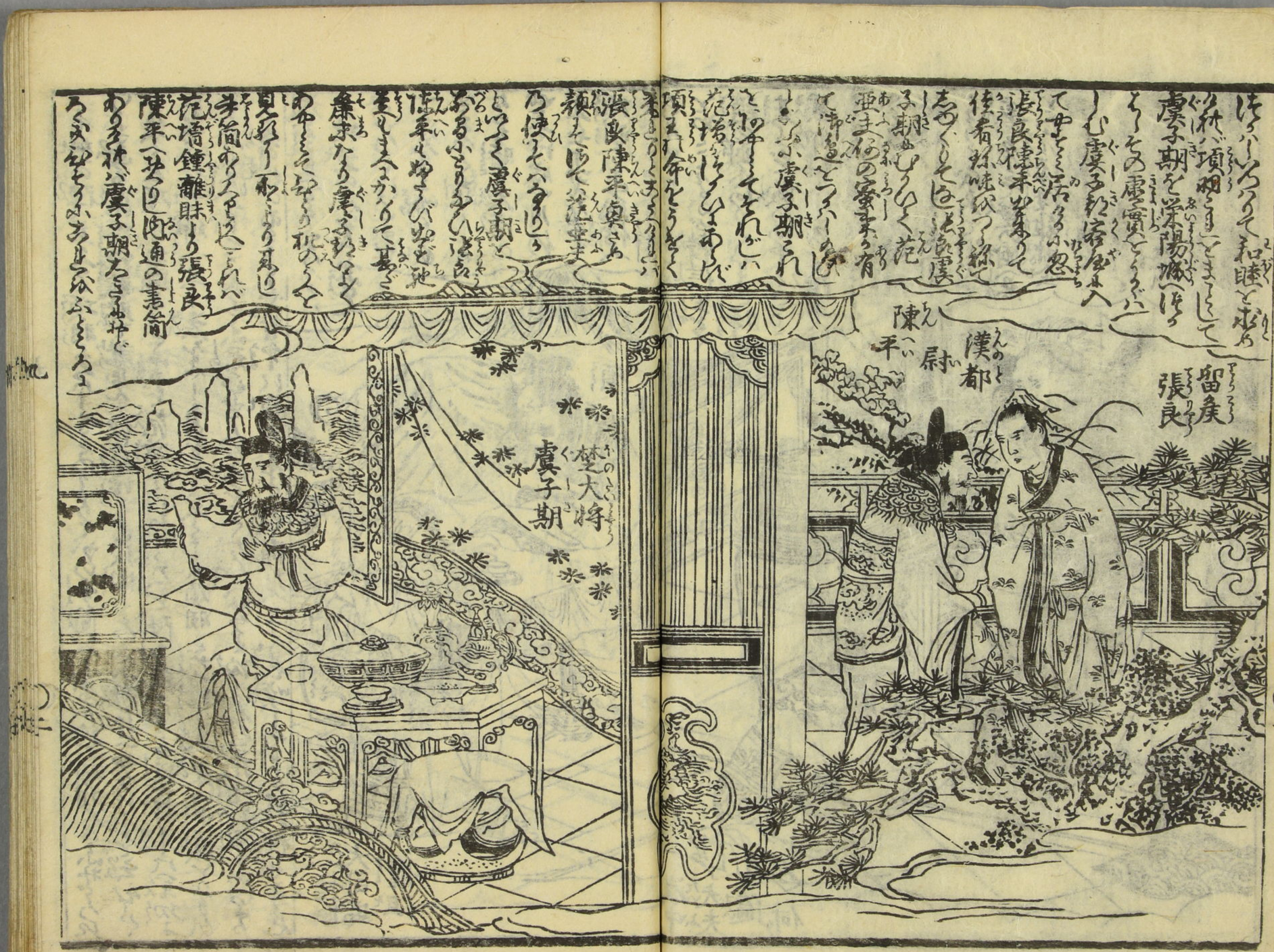


是後とうべ王
は王陵は智
勇の大将なれば
かくまりて城中
すしてまもるべ
漢王陵を
攻るとうべ
項羽は
攻めこらべ
王陵は
なるものの
このところふまもん

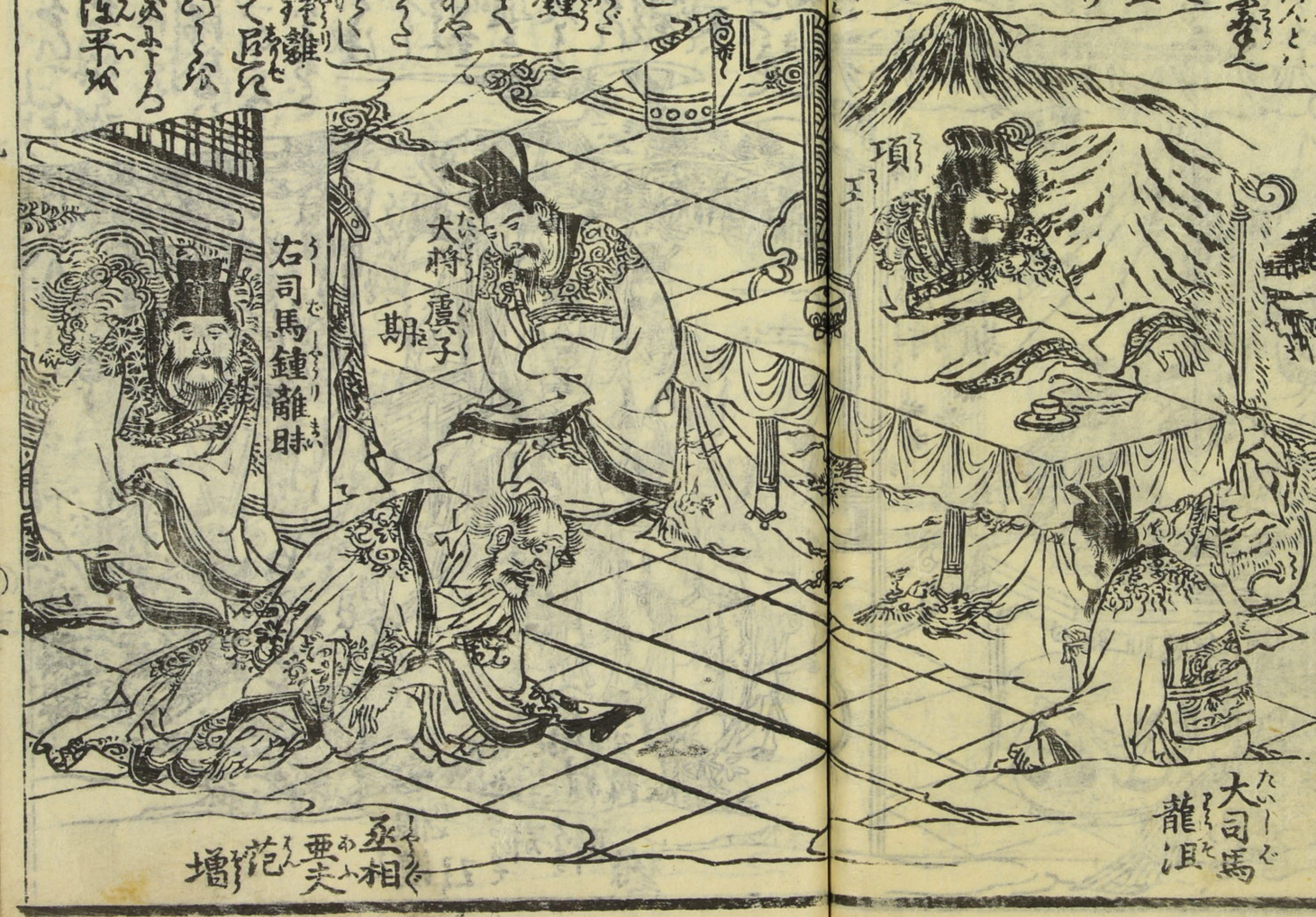

漢の王陵が母
項王
范増

陳とまうけくもまうけ趙
趙歇とまぐらの趙の陽
将李左車と燕ふつへ
て燕を説しめられが燕
王謀臣蒯徹くりを
城とひきぐる漢ふぐるを
ふあいて韓信魏豹燕
王の勢とあいせて
已ふ五十万金湯ふそ
ちゃびけるちゃれ李
陽ふ流を李ちゃて
すくるる王陳ふ毋のこれ
とかのとを病ふ伏てあらう
項羽らの虜ふ来とて
又滎陽へ

項羽ふ大軍とし
とかをミりふが韓信を
趙の國ふのりくいまご帰
ますどを城のふ
罠卵さぐ
ゆくるハ
ちるふのの花情種
離昧ゆるまぐ反間ハ
くりくふかりて
遠ざんを楚の國
と入花陽津島賜企
粮を漢ふ内通と
い者ふれ項羽ふと
けるふを
のんを生ぐくりをのら
漢王隨何を楚ハ陣へ


留侯
張良
漢都尉
陳平
楚大將
虞子期

して壁の陣（三ノ二）項羽はんへくくとなげくうちに
ひろ亜の范増鍾離眛と謀ん叶范増と鍾
離眛とくと項王を賊ん申さんと陰
光そのゝ古郷へのゝ去をゝ一あるとゝ十里ゝ
そのゝふ後ゝそのゝそのゝふ思ゝ人をゝ
ゝ舞楼のあまりゝ背中ゝ疽出来ゝ苦痛
苦ゝ痛ゝ苦ゝ痛ゝ苦ゝ嘆ゝ中ゝ人ゝ何ゝ
ゝ一声大音ゝ呼ゝび血
とゝふゝく死ゝゝ
ゝゝ時ゝ大漢の
四年戊戌八月
年七十ゝ
項羽ゝ仲人
ゝ



ゝ城へゝゝゝ
めてゝゝゝゝ敵の
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

項羽范增をうしなひ軍
まもりくさびくに高祖城を攻
やぶれんと貢物をワたすと
せめたりけるを栄陽城ハ
韓信趙ハあるいハ
すくいざるを以て今ハふせぎ
戦ふ事ハいとく激
しき城をいそぐ芝ん
の事ハ歓軍十重廿重
にとりまこれば道を
ふさぐ事なれ
陳平すゝめ出くそれ
ざ一つの謀あり将軍
紀信ハ高祖上の車
に乗ていつこえ
漢王に假
に成て降
参

と車ハの形く城を
出しるべ楚ハ此一方
のみくに成ると其ゝ
初そふ小らと流のゝで
ゝ万全ハ計なゝん
漢王これを聞く紀信
しの小車ハ紀信さう成
けゝき大きゝ悦び臣
ハゝく一命ハすて君
まもりくゝ神ひとをろ
て出さるれば漢王ふゝく紀
信ハ激忠ハ成ん心ハ
陳ゝの旗と玉と扶漢王
城と出く陳ゝとをいと
多くハ頂羽大きゝ
一方の風とゝく漢王ハ日の

項王
楚司馬
李布

漢大將
紀信

項王

漢大將

周苛

漢大將樅公

韓信がかくの事聞とおく
まくまをとりどをを
あまへといいけいまを
韓信ことをきくく云
とをりでをんくまれ
萌侯大國あって七十余城
城をかなてを覇食其
二個の傍若ぐ云すの
者とりくく七十余城
を降しこれぞその功
元帥の重用
あって他国滅
みはくくをんくまれ

漢大夫
酈食其

かくを枝のそのえ
を討なまへ
こと而全し謀
なりとすをを
八韓信この侯云
出ふくを云
すをくく斎れせあ
くれてふれをく
齊王
斉王田広
酈食其をいど
をんぐ刻ぐをくふ

齊大将軍
田横

して陳余をををつをて中郎ををくそのををををををををををを
道をでををををふを酈食其ををををををををををを韓信ふ事聞くをを
をををををを云ををををををををををを酈食其ををををををを韓信
ををををふをくくををををををを酈食其ををををををを韓信
をををををををををををををををををををををををををををを

酈生成奏ていはく韓信
こと[illegible]と有りて大ぶんの[illegible]
を息みせざること項羽龍細
と大ねつ[illegible]して齊をとらんと
しむるに韓信嚢沙
の[illegible]を以て忽
ち細と切くみたをび齊
の城を破りやぶりて齊
王を乱軍のうちに
こうこと田横八海島へ
ゆきたる事韓信
高祖大ぶんに怒り
齊のまさんとす
とかりい漢の
表をたてまつり

三齊王韓信

ぶんりうをあたと
なりて結ぶこと
其色を安んせんが為
韓信と二齊をふ
封じこのうちに
のうち韓信が身出
神のわざきりこと
とをとりふ
○漢王ふたたび滎陽
へえり諸国の軍
勢をせんとよせ
ぶ項羽大軍成
辛くて滎陽をのがれ
城をこ十里へぶ
軍をうつして

燕國
蒯徹

項王
楚の大司馬
項伯
漢王
父君
太公
漢王

齊王韓信
留侯張良
呂后
太子
漢王
太公

ちゝ父をてなぐ唐崖
の淵ぐるとなんこゝを
縊し項王ゑ父せをあて
武城へ〜てゝり久
漢王項羽たゞり
大公宮居とゝろを
今へうろ安〜ゝろ
ゝびて成帝ふりて
軍勢をもよふしふを
たゞび楚をうつ漢をを
滅したゝ項王ゝ父
きゝ江さへ大きふゝり
大軍ゝ引率して
ゝくく成帝へ
おゝ〜絵

漢大元帝
韓信

三秦を韓信ゝ二方の勢力を
率ゝ成帝ふ率り英布を
越ゝゝふ大軍を率して漢
ゝ父をけ江ゝ渡の軍勢
ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
韓信ゝ大将とあゝ
ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
ゝくて項ゝ
きゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
ゝ理ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ九里
ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
ゝ〜ゝ面ふ勢をふせく
ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
ゝ〜ゝ項伯種離
時ゝ〜ゝ智謀あゝ
ゝゝゝ項王ゝ

壊ぶ[illegible]べく[illegible]しみ
よりて李左車に謀るところ
けいろうりて楚をくじしや亜
なるに項王ひとりさしすべ
こそ既に[illegible]
此[illegible]項王李左車が陣
系とまこと[illegible]万夏
[illegible]とこと[illegible]議して壊ふ
おし[illegible]とするとき季布
周蘭あるいはむしろ天
項王[illegible]季
布全[illegible]
昧と[illegible]議して項王の后
虞氏に付あること止め
しむ虞氏[illegible]封ら
[illegible]

鍾離昧

楚右司馬

漢廣武君李左車

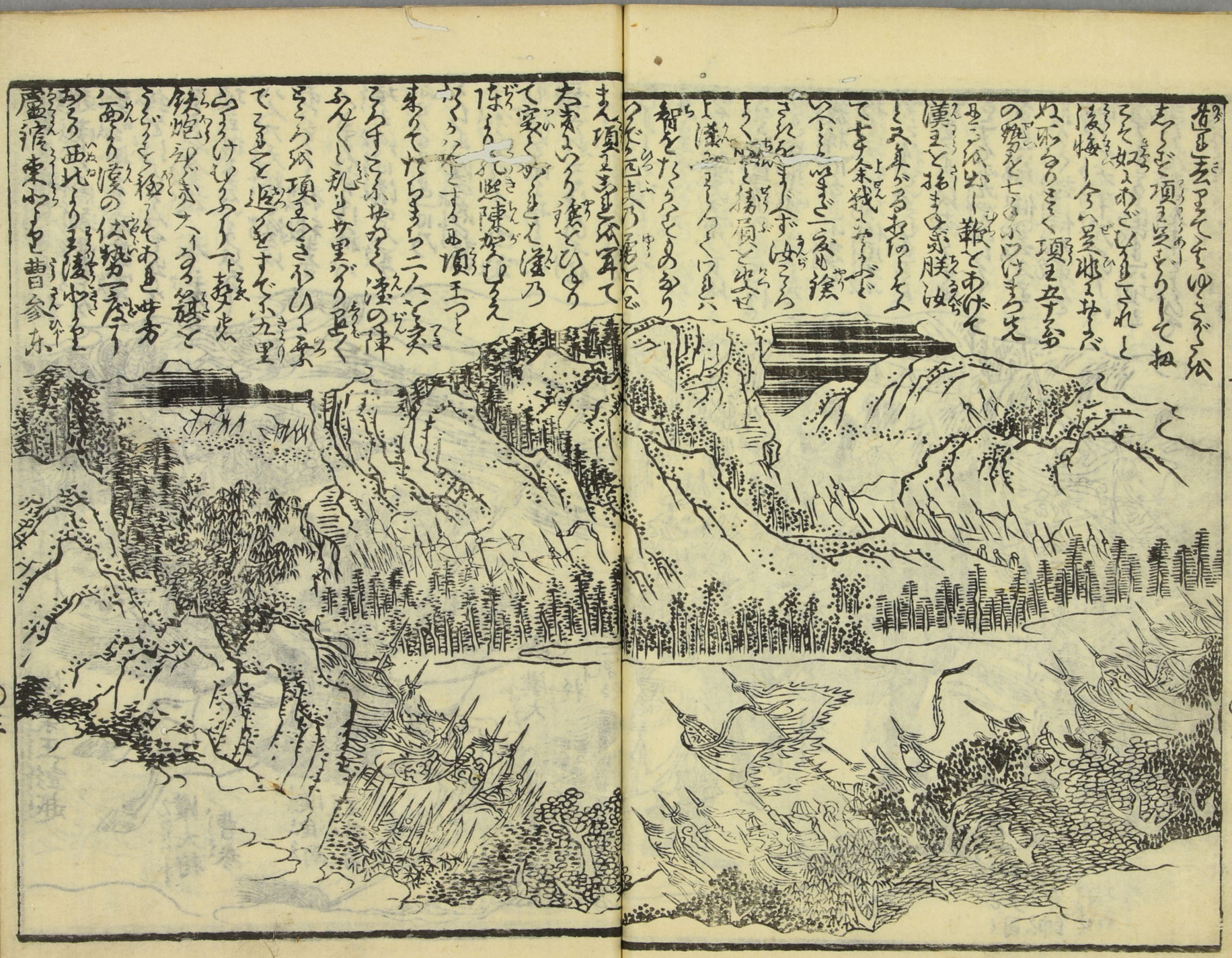
楚大将周蘭

ひ[illegible]項王[illegible]
更[illegible]城を
[illegible]楼の橋乃[illegible]
[illegible]烏騅の竜[illegible]
[illegible]項王乃
雒陽[illegible]多ら
[illegible]項伯周[illegible]
[illegible]
項王[illegible]
とすでに九里[illegible]
[illegible]侯の云[illegible]
[illegible]韓信大軍を
屯して九軍乃[illegible]
[illegible]告ぶ項王
きこえ李左車とよび
[illegible]

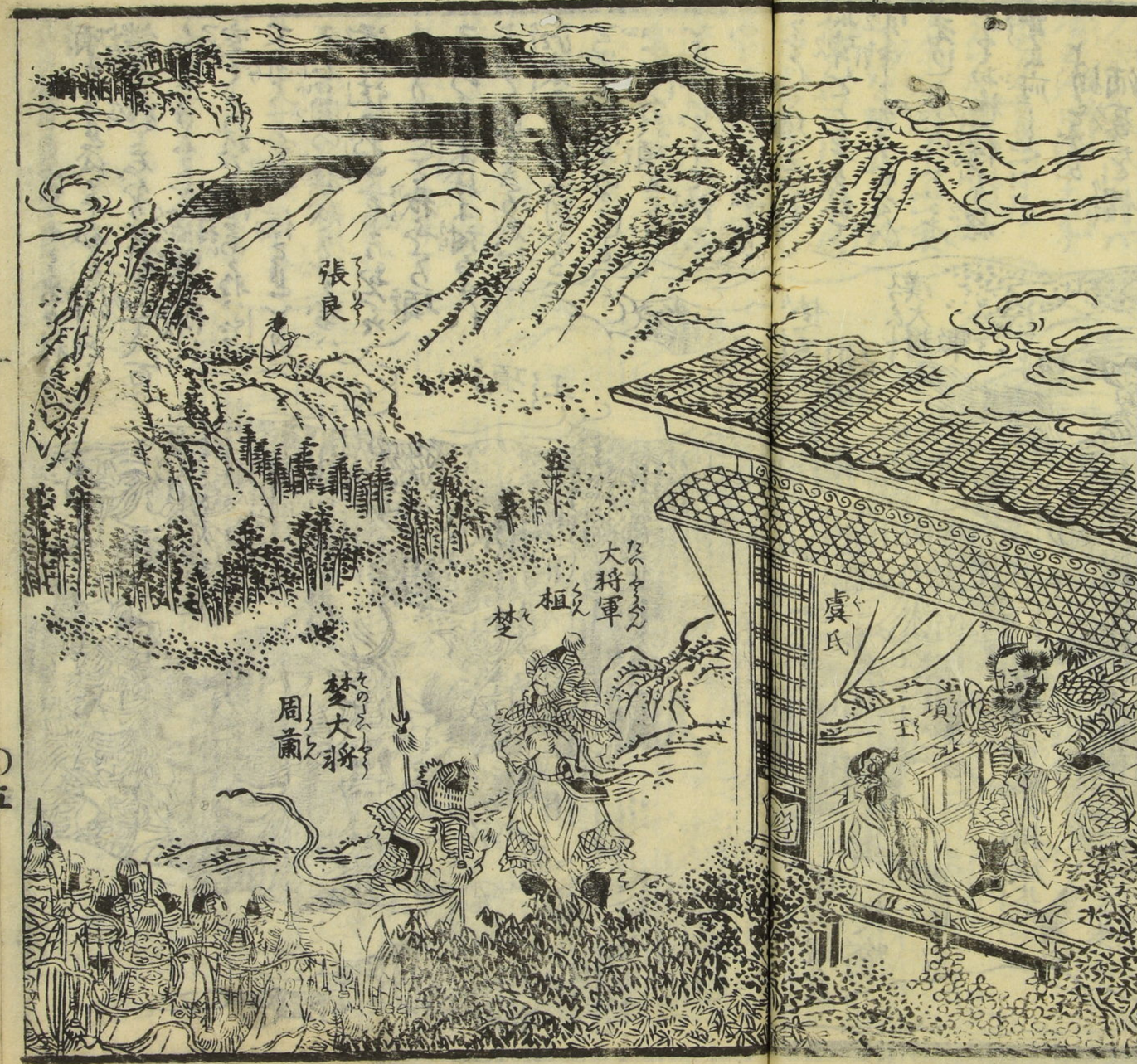
項王

楚大司馬軍帥

項伯



漢梁王彭越
漢大將曹參
漢淮南王英布
漢大將
漢武陽侯樊噲
漢大將臧荼
楚王項羽
漢大將軍
陵王



絶せへ間ときりなき落ゆんこ氏ぢそを張良ろの夜離嶋の山ちのぐきにのぐり
洞の笛と吹く一曲の楚ノ歌とぢくくまかなして数百人の士卒みそ〳〵ぢふちちそそこ氏
先きをかはそのこ高氏清和ーて聞ひぎぐくうろこの歌ぢくくまを援ぐぐ十ぐ八九八ぢちうとこち項王ロこそ
びくこきうこ右帰ろ左くくこの手ぢ引ひくくを陣中ところふ大ぢ八周蘭桓楚の二人士卒ろぐふ八石全を殘り止まる項王ぐ八そまぐ多り
と悲哀一曲とつくりて虞氏くまれを聞ひて虞氏あまれたこの山塔ろのて又一首乃詩
とつくりて右まて氏和ー殺きてハうこひ唱くハけ〳〵ぢふぐ項羽とすすこに捨ろあちの
びとこここ涙みひせびくる虞氏対ぢりうこ項王の身こあまちあーんーことおそし

たちまち自害してうせぬ項王
鎧の袖をちぎりすてゝ八百
人を二手にわかち嬰陳に
寄せくるを項王信じて
て逃げうせる韓信こゝにて
こゝ合図の旗をうごかば
漢の法大将四方よりあつ
まれとしたゝかふる項
王三ぶの面余猛を対ゑれ
ようく四をきりぬけ
江東さしてかちめをる
を漢の大軍のゞとく
よせくるを項王
をも怖れずして敵を
つゞく表四とつゝかぶり

項王

その後陰陵の山院
ふかく敵をあしらひ傷ふ
負ひてうく飢をまのゞ
人をるをつゝ成体の
ゝを示敵をうんと
すれどもかの漢の大
将灌嬰楊武呂勝
紫武薪歙ふ大軍を
率ひ八面をうちうめこむ
項王あくまでたゝかひぬ
ましどまに天空のふるをみる
みちをうしなひ敵もうろたえ
五十里をうつゝ高沢
いつゝこゝ後といふ四方を
ながめとゝろふ漢の去
ゝとゝろをもとゝろ項王

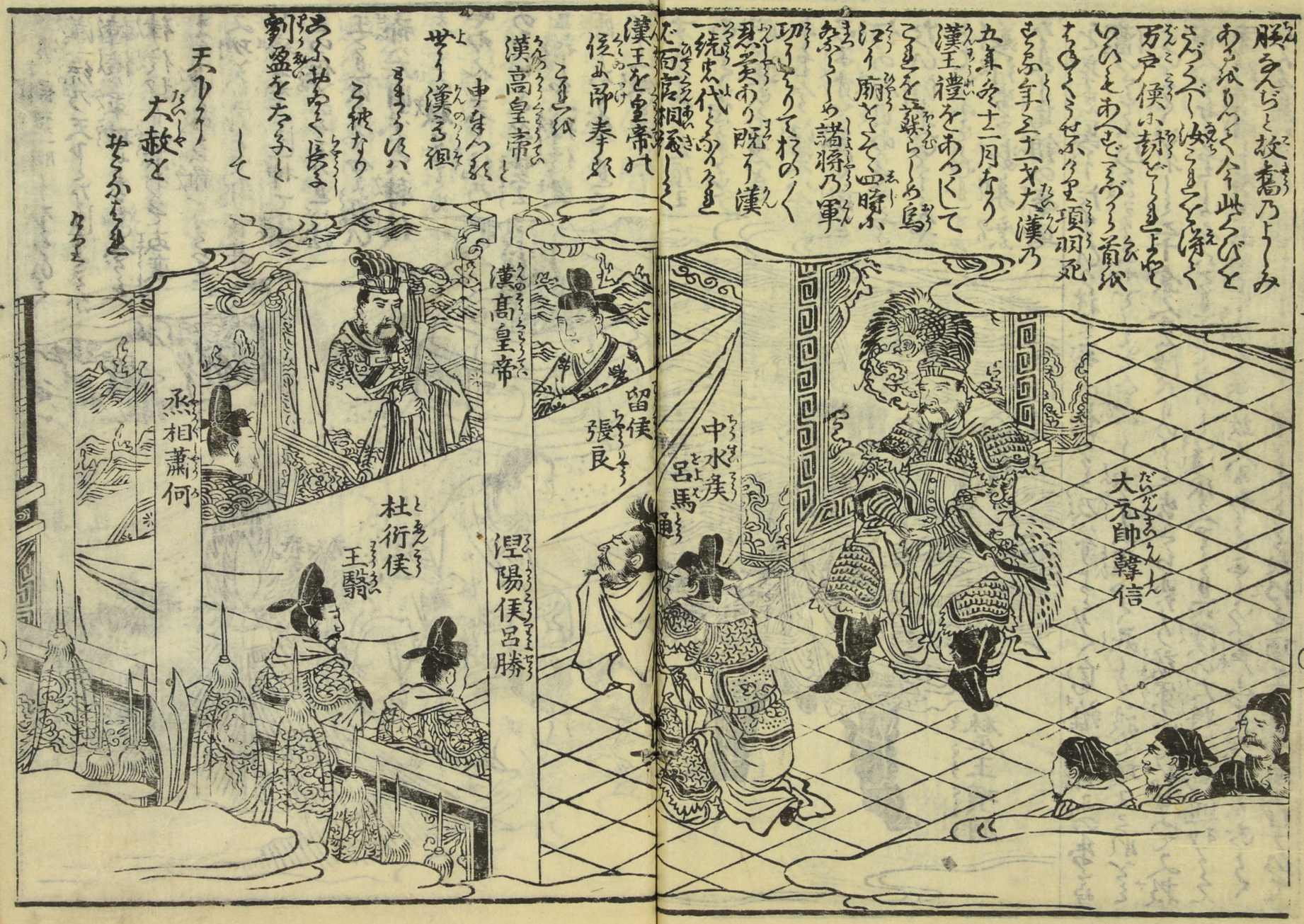
討のとさまとする二十八騎
と二手ふつをしに敵成
斬て捨しに項王今日
逢の大敵とたくらい大
ゐる九人士卒の余人を
うらさりしうぞもその
外一百乃名卒をも
こうしびあのこれ
烏江乃亭の長小
舟ふ指さし来りて
ゆきをれハ陛下こそや
ぐしみ舟をめられく
江東ふいらゐ帰
び軍勢とあるの
漢とたくらひ成
ゆへしうあて

漢赤泉侯揚喜
漢中水侯呂馬通

すあ名ゑどと項王
あくさくさくどと
眼ぶ運さであつき
ゆをを今江東八千
乃子弟をなく討を
何の面目ありてふふ
たび江東へいくんや
とそつふさくひゑどと
義ふ歩と数年ふ
なゑ一烏錐の竜馬

楚王項羽

を亭長長ゆ大きい乃舟で亭の長ちく及バすよりく烏錐と舟ふの乗ゑ
漕いくとふ山るのまゑやとくきんゐ一水中ふ飛のく死ゆ乃舟ふ項王ふれとと
くいゆく四れ〳〵二十余人ふ使ハりめ〳〵を歩ごちふなり敵軍ふりけひのてゑ数
百人とをいををゆ今ハこゑまでゐりと後成ゑ久ア〳〵ゑバ漢の大将呂馬通むりゑ
来れ項羽乃名をあぞく海を眼ゑ故人ふあ〳〵どやくいゑ声山ふんぐゐ〳〵ざくく
なゐ名ゑ山ふ呂馬通ゐ上ゆ打ゑれすくそくぞ死ゆと項王呂馬通ゑむりひて



朕えんぢく故書乃ようみ
あつかりつく今此てびを
さぐぐべ汝こと清く
万戸侯小劫ぢ一よやを
いひもあへどこづ貢式
たくくせぶ項羽死
さぶ年三十七大漢乃
五年冬十二月なり
漢王禮をあつくして
こをを葬らしめ烏
江に廟をこそ四瞬ぶ
ぶらしめ諸將乃軍
功ことりてれのく
恐美あり既て漢
一統ぶ代ふのを
天下同宮相國しく
漢王を皇帝に
位ぶ即奉ぶ
こを式
漢高皇帝
申まへ式
世ぶ漢ぶ祖
ままうぶ
こ統なり
ちぶ世ぶく長よ
劉盈をたぶ子と
して
天下ぶ
大赦を
せぶふを

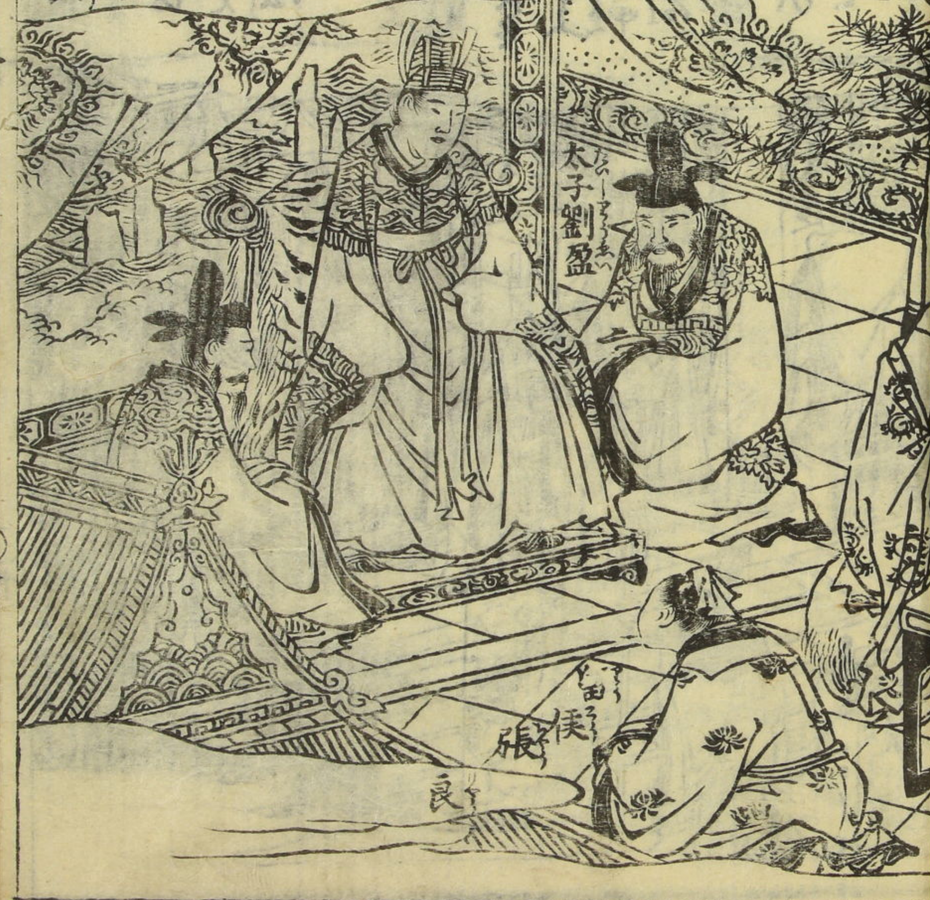
さるに八剛楚一時ハ天ひとなりしことろか
漢一統乃天ひとなりしことろか
韓信ガ軍功あるとハ
韓信ハ趙ハあるそ度
まそ漢ニの急難とすくをと
ム功ともしたりて鄙食其
と齊ハ老ことろ押てハ
ニの位とのそ〻ハ滋
王ニハ成ラく勿ニ敗ひ
赤ハ大國ハ韓信
ちう金板ちるとも
ぜわんと天下一統乃
のちのちあて拙ニ王
ハ封ニ韓信ハ楚
國ニ
ひ一級とあるし

漂母ちびと服を
ムぐら帯ハ者人と
よび匹漂母ハ笑
金ふあをあるこ市
ムあ中尉の官と拙
ムハぐれて完仕大
ムを感じみぐ和
恩ハ弥と其後韓信
楚ニ大乃鍾離昧ハ
ひまんハ亀企報ちうニ風
あるハ紙ハ祖ハれと拙ひ
雲夢ハ行幸して韓信と
うるハ楚ニの伝と毋ニて
淮陰侯ちまま里韓信ハ
うして乗ニて老よう病と
拙ニく朝ハ出ど呼ぶ陣幕と

いつもの企数ゆへ韓信陳豨と内通して劉氏誅んとせしが勿ち発覚
事露顕し呂后ひそかに未央宮に首をとり梟し三族をほろぼす

○韓信殊勝にてくらう梁王彭越淮南王英布こうふこうぶこうぶ公世ド
敗亡し梁王彭越淮南王英布こうふこうぶこうぶ公世ド敗亡し
呂后高祖に張良ぶ長
略強とすゝめ謀
とりの法ハ張良商山の
四皓と又ハ四人の賢人を
すゝめ太子傅とし
惣人ハ祖ハ
ゆへ

これ白髪の老翁なれ
ゆへ世ハ四皓といへり
き祖ハ呂后たびく
ゆへ天子ハ恐ざる四皓の
やうく太子ハ仕へ
皇帝ありて初ハ大な
賢明なりと三ハ
こまりて小天下を
ひきいんとせしに
止みをり所謂四皓々
東園公唐宣明
綺里季
夏黄公崔黄
角里先生周術
老子ハ天ぞ成長
仁孝にして張良

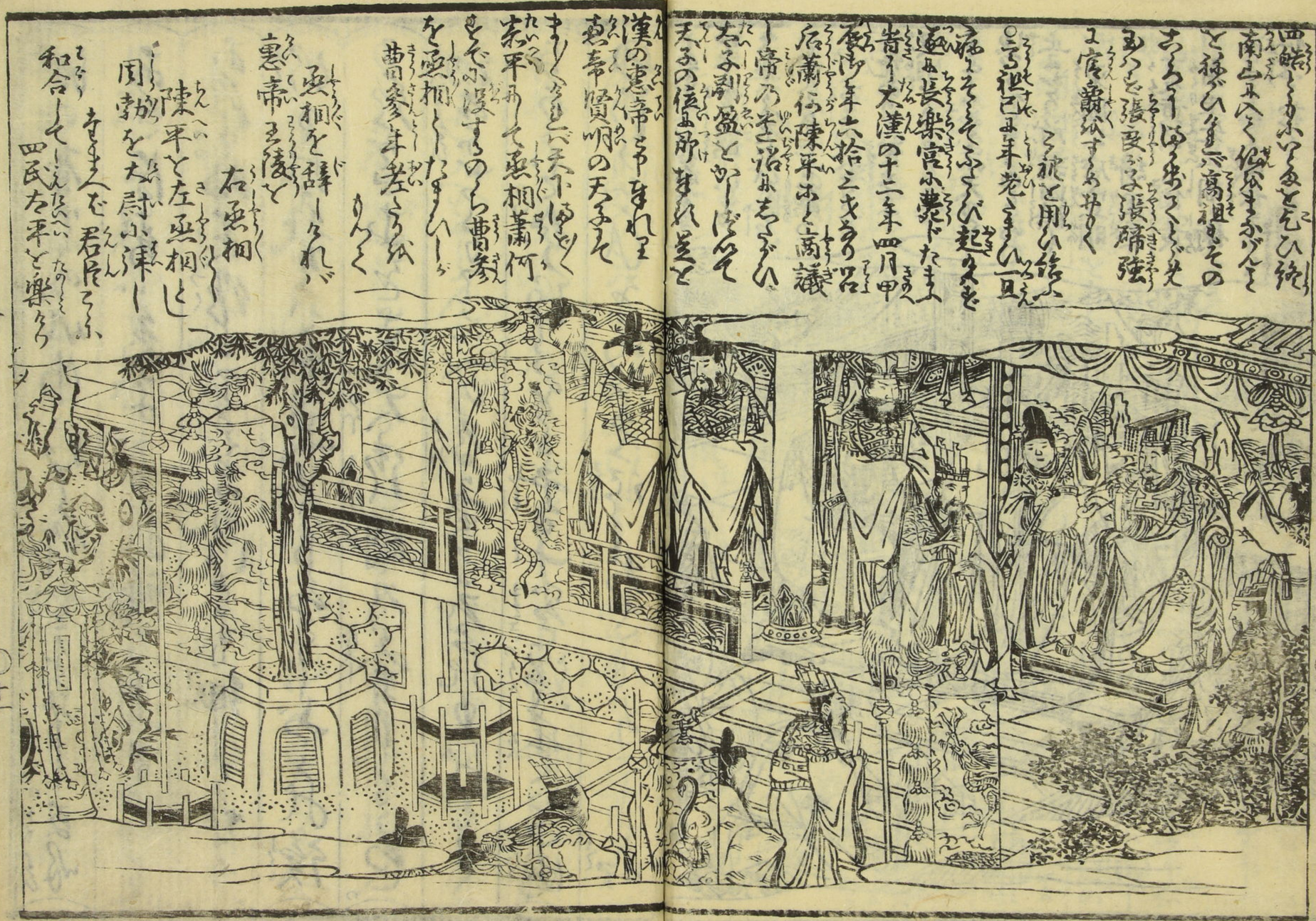


四皓ハ高祖ヲ恐レ給ヒ紫
南山ニ入ク隠ルマフジンと
と称ジ給ヒ高祖もその
ちからをゆるくしぐ光
ものを張良ぶゆ張弼強
王宮競紙すゐ井く

こ祝と用い給ふ
○こゝ祖已ニ年老ましく一旦
病ましてふたゝび起ル
遊ル長楽宮ニ薨ドたまふ
皆ゝ大漢の十二年四月甲
寅ノ年六拾二ヒ之ゝ
后蕭何陳平ふゝ高議
し帝の之ニ沿ルちゝ
たゝ子劉盈とかゝ
天子の位ニ即ましを

漢の惠帝ヲ
惠帝賢明の天子と
ましく天下ゆゝ
宗平まして丞相蕭何
もゝ没するのち曹参
を丞相ゝなるゝ
曹参年老ゝ
りゝく

丞相を辞ゝれば
惠帝ゝ後と
右丞相
陳平と左丞相と
国政を大尉小平
和合して君臣こゝ
四民ゝ平と楽ゝ



沙の屋敷の。仕作むく所。空を眺めて。夜明
あさ。朝ぼらけ。夕ぐれ。夕ぐれ。夕ぐれ。
あれば。姫美郷。てこの。いとも細くなり
ぬれば。ぬれば。ぬれば。ぬれば。ぬれば。
ぬれば。ぬれば。ぬれば。ぬれば。ぬれば。
ぬれば。ぬれば。ぬれば。ぬれば。ぬれば。
初ぬれば。ぬれば。ぬれば。ぬれば。ぬれば。

こゝろハ男女のよりなくて（孤りなくみるゝ心の
たゝ恋ゝるゝ人のこゝろ
ぬ
ぬ
ぬ

へ13
4316